

2014年10月26（日）

備前・大山・鳥取ツアー 三日目
投入堂参拝登山・倉吉・白兎神社・砂丘

鳥取編 写真 by 能勢、熊本、吉松、布目、根岸

前日夕刻から塩野和子さん、今井清秀さんご家族が岡山から車で参加され、3台の車に分乗して3日目のツアーはスタートした。天気は文句のつけようのない晴天であった。

出発前：



朝8時、前日晚宿泊の鹿野温泉 国民宿舎
山紫苑前にて記念写真
今野夫妻を入れて12名揃い組。



出発前に撮影した風景：左は温泉の元湯：
男性陣は4時すぎから温泉に入り、用意万端
だった。朝は入浴不可と勘違いした岡部さんは、
食事後10分で入浴した。
下は朝食風景：7時20分ごろ





三徳山三佛寺に到着（8時35分）

三仏寺（さんぶつじ）は、天台宗の佛教山岳寺院。山号を三徳山（みとくさん）と称する。開山は慶雲3年（706年）に役行者が修驗道の行場として開いたとされ、その後、慈覚大師円仁により嘉祥2年（849年）に本尊釈迦如来・阿弥陀如来・大日如来の三仏が安置されたとされる。



ホテル前に珍しい、「温泉の自動販売機」が有った。

100円で約100リッター（2分間）、18リッターポリタンクで5本強である。

山道をドライブ（約30分）した。

歩きはじめ：和子さん、今井ご夫妻も参加した。



8時40分、参拝前の写真撮影。
昨日に続いて沢山階段を登った。

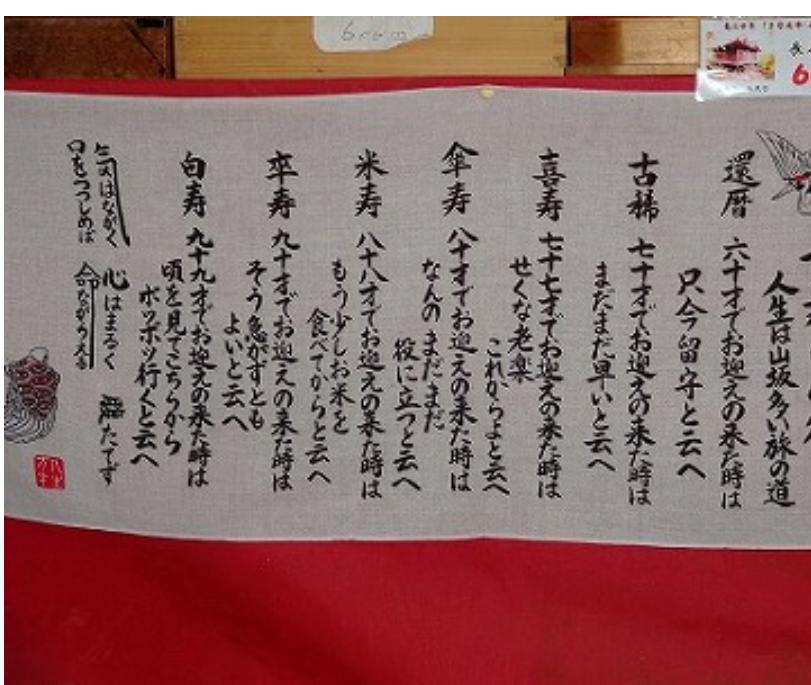


行者粥は、沢山の具が入って栄養たっぷり

境内にあがると、祭りの最中であった。係員に説明を聞くメンバー。
行者粥の垂れ幕が見える。



行者粥、お茶が無料で ふるまわれた。



能勢さんが、「長寿の心得」を見つけて撮影した。

「人生は山坂多い旅の道」 × × 歳でお迎えの来た時は、× × × と云え。「気はながく、心まるく、腹立てず、口をつつしめば、命ながらえる」 名調子。

投げ入れ堂参拝コース： 修行コース



鳥取県のほぼ中央に位置する三徳山（標高 900 メートル）全体を境内としている。赤く塗られた参拝コースは、修行コースに成っており、「滑りやすい靴やサンダル、ハイヒールは入山不可」とガイドブックには書いてあった。登山靴がおすすめ。（順に番①から⑦まで紹介する）



① 登山参拝受付所（入峰修行）： 入場料： 600 円也、熊本さん名で 10 名を記帳登録し、「六根清浄」と書かれた輪袈裟を受け取った。川島さんだけは、履物検査で不合格、車に登山靴が有るのに泣く泣く藁草履 500 円也を購入した。



② カズラ坂： 岩や木の根を足場に狭い道をよじ登る。修験道だと言う事を実感した。



③ クサリ坂

ほぼ垂直の岩肌を一人づつ登る。



④ 文殊堂・地蔵堂

崖の岩の上に、絶妙なバランスで「懸造」技法で建てられている。いずれも、国の重要文化財。手すりや柵などは無く、「オジサン達」は、こわごわ下を覗いていた。



⑤ 鐘樓堂： 小山さんのお祈り風景、鳥取県保護文化財の鐘楼は約 3 トン。どうやってここまで運んだかは不明。毎年大晦日は、雪の中大勢の人がこの鐘を突きに来るとか。下は、吉松リーダー。





⑥ 岩窟の中に建てられた観音堂と元結掛堂。「胎内くぐりの道」を抜けたところ。行者姿も見かけた。



⑦ 投入堂

役行者（7～8世紀に奈良を中心に活動していた数々の不可思議な事績を残した修行者、修驗道の開祖とされる人物）が三徳山を訪れた時、その山のふもとでお堂をつくり、法力でお堂を手のひらに乗るほどに小さくし、大きな掛け声と共に断崖絶壁にある岩窟に投入されたと言われており、「投入堂」と呼ばれるようになった。正面・側面いずれにも入口はなく、許可されて入堂する者は崖伝いに堂の床下を通って背面から縁に這い上がる。

看板：上記の説明が有った。



ペアに成っている小さな御堂



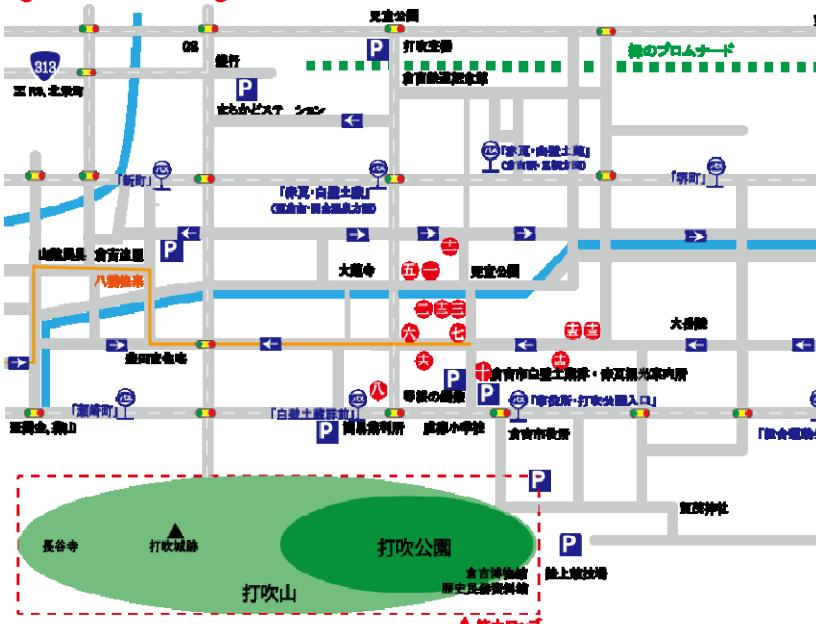
12時前に三朝（みささ）温泉を経由して倉吉へ12時半に入った。

倉吉レトロタウン：江戸・明治期建造の味噌蔵や醤油蔵などを活用

白壁土蔵群周辺マップ

赤瓦 あかわら

- | | | | |
|--------------------|----------------------------|-----------------|------------------|
| ● 東京一号线 | ★ 東京六号线 / 駒沢公園駅 | ● 古川十一号线 / 青梅線 | ● 東京十四号线 / あきりかわ |
| ● 東京二号线 / にこたん人形工房 | ★ 東京八号线 / 元町公園駅 | ● 古川十二号线 / 立川 | ● 東京十五号线 / 林間山駅 |
| ● 東京三号线 / 中野バスタ | ● 東京七号线 / 宿命あることを発見 | ● 古川十三号线 / 朝霞駅前 | ● 東京十六号线 / ぎゅうりい |
| ● 東京五号线 / 久慈 | ● 東京十号线 / 意古市内色土耕園・意古市内研究所 | ● キッチンカフェ天女のいすみ | 乳製 |



簡易裁判所横の駐車場に車を止めて、赤瓦八号館にある蕎麦屋の2階に落ち着いた。



手打ちそばをいただいた。



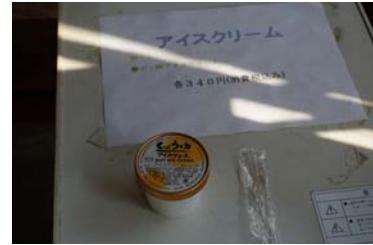
白壁土藏：

白い壁の上半分は白い漆喰（しっくい）仕上げ、下半分は黒い焼き杉板の腰壁を付けています。漆喰は防水の役目を果たす。赤い瓦は、山陰地方の風土の一つで、島根県石見地方の石州瓦を起源とします。焼成温度が 1200°C以上と高いため、凍害に強いのが特徴です。

醤油アイスクリーム：



白壁・赤瓦地区の買物風景： 13時40分に駐車場集合で、思い思いの場所を散策した。



薄い醤油の味は、さっぱりしていて美味しかった。



倉吉線鉄道記念館：

倉吉軽便鉄道として 1912 年に開通し 1985 年に廃線となった旧国鉄倉吉線（20km）の記念館である。館内は当時の写真パネル、信号機等があり、館の横には蒸気機関車 C1175（1935 年川崎車輌製）がある。電気を利用者が点けて見学するようになっている。



白兎神社：神話ゆかりのパワースポット（14 時 25 分）



傷ついた白兎を助けた大国主命と八上姫の縁をとりもつたとされる縁結びの神さま：

再縁祈願（？）：開運兔の石像



鳥取砂丘：駆け足で見学した。（15時10分）



「地場産プラザわったいな」で買い物後、鳥取空港へ

砂丘の撮影風景：



今井さんご一家とは、ここでお別れ。
塩野さん、川島さんのご姉妹はここから別行動。



16時50分空港到着：



レンタカーの返却手続き、帰り便への搭乗手続きも終わり、まずは乾杯。第2弾では、それぞれ地酒を注文。



手荷物のチェックインカウンターに、18時20分から並び、全員無事搭乗した。
18時55分鳥取発、20時10分羽田着の
ANA298便で、予定通り8名は帰郷した。
盛りだくさんで、全員大満足の3日間であった。

今井さんご夫妻、塩野・川島姉妹は、瀬戸大橋を渡って、四国で「うどん行脚」を楽しめたと連絡を頂きました。

全員、無事に帰還できました。